

三重県総合博物館

イセエビ漁のにぎわい～海と人がつながる漁村の活気～

開催期間：平成29年 4月 1日（土）～平成30年 3月31日（土）



【企画展の内容・目的】

- イセエビは、日本各地で古くから祭礼や正月飾り、高級食材として利用されており、海の恵みの象徴であり、人と海との関わりを深く掘り下げて学ぶことのできる海産物である。そこで志摩地域のイセエビ漁について、地理や歴史的背景、最新の研究成果を含め紹介する2つの展示を実施した。
- 展示①「先っちょ志摩に生きる」では、志摩地域の中でも特に個性豊かな「先志摩」地域に焦点をあて、イセエビ漁や海女漁などをはじめとする地域の生業や暮らしの移り変わりについて、背景となる自然環境を含め紹介した。
- 展示②「暮らしの道具と小学生と調べるイセエビをめぐる食文化」では、小学校3・4年生が社会科で「昔の道具」の単元を学習する時期にあわせて、昭和の時代の暮らしについて理解を深める展示を行った。その中で、志摩地域のイセエビ漁をめぐるコミュニティの助け合いと、漁で得られた豊かな魚介類をみんなで分かち合う漁村のコミュニティの伝統やそこから生まれる食文化を受け継いできた知恵について、地元の小・中学生とともに調べ学習した成果を展示した。
- 関連事業として、イセエビの生態や養殖について専門家による講演会を行い、最新の研究成果を知ると同時に、貴重な資源を未来に渡って享受していくための重要性を学んだ。
- 「ワークシートでたんけんしよう！志摩の海」を子どもの年齢に応じて2種類用意し、展示を見ながら自分自身で調べ、学ぶ機会とした。

1. 企画展示の内容

展示①「先っちょ志摩に生きる」

展示②「くらしの道具と小学生と調べるイセエビをめぐる食文化」

■開催期間：展示①平成29年9月30日（土）～平成29年12月3日（日）

展示②平成30年1月4日（木）～平成30年2月16日（金）

■開催場所：三重県総合博物館 2階 交流展示室

■入場者数：展示①12,632人

展示② 4,680人



三重県総合博物館 外観



企画展会場 入口



越賀村絵図



鉱物や化石の展示

展示①「先っちょ志摩に生きる」では、展示室入口を入ってすぐのところに極彩色の「越賀村絵図」を配置することで、まず先志摩という地域への興味や関心を持ってもらえるように工夫した。さらに周囲に近代の地籍図や航空写真等を展示し、過去と現在の景観の移り変わりを示した。これらを通じて、海に面し、海とかわりながら、志摩の土地利用が変化してきていることを観覧者が理解できるように努めた。

このほか、熊野比丘尼や津波といった歴史的なトピックや、鉱物・化石等の展示を行い、先志摩地域をより詳しく知りたい観覧者への要望に応えることとした。



世界初となるイセエビ幼生の樹脂封入標本



イセエビ漁の道具（網やウキ）



展示室中央のイセエビ模型



イセエビ漁の映像展示



網にかかるイセエビ以外の魚



志摩半島の生産用具及び関連資料

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

これらをふまえ、先志摩半島で盛んに行われているイセエビ漁や海女漁について紹介した。最新のイセエビ研究の成果に基づいた標本や、中央に巨大なイセエビ模型を展示し、来館者とりわけ子どもたちに興味を持ってもらえるようにした。イセエビ漁に関しては、実際に使われている道具や網にかかるイセエビ以外の魚を展示したほか、漁の様子を撮影した動画を展示した。

また、近年国の登録有形民俗文化財に登録された「志摩半島の生産用具及び関連資料」を取り上げ、当地域の多様な生業形態についても紹介した。



展示②会場入口



エビ網漁の道具と料理のレプリカ



お魚調査の展示（右端のケース内カード）



再現されたエビ網漁の網さばき場

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

展示②「くらしの道具と小学生と調べるイセエビをめぐる食文化」では、主に昭和のはじめ頃から現在にかけて、くらしのなかで身近に使われてきた道具を、使われてきた場所ごとに展示した。その中で特に、イセエビ漁で全国屈指の水揚げ量を誇る志摩市志摩町和具を中心に、エビ網漁で使う道具の調査と志摩地域の小学生のみなさんと一緒に行った「志摩のお魚調査」の調査結果もパネル等で報告した。

この展示は、社会科の授業で“昔の道具”を学習する小学校3・4年生を主な対象としており、教科書に載っている昔の道具や普段はあまり目にすることのない漁労具を実際に見て、その使い方を学び、理解を深めていただけることを狙った。また、こうした道具やお魚調査の結果を見ながら、親子で、あるいは祖父母と孫とで世代間のコミュニケーションが図れる絶好の機会として位置づけ、展示物の配置や解説に工夫して展示を行った。

【来館者の声】

- イセエビのみ模型や魚など迫力があつた。
- 海は大切な場所ですので、みんなで守っていかなくてはならないものです。
- 海は食の源だと改めて感じた。
- 海の環境を良くしていくことが、私たちの生活をよくすることにつながります。そう思いました。
- 三重県は食材が豊富ですね。海から頂くものって大切です。
- 子どもたちのためにも、きれいな海を維持したい。

2. 関連事業の内容

■特別講演会

【開催日時】①平成29年11月 5日（日）13:30～15:00
②平成29年11月11日（土）13:30～15:00

【開催場所】三重県総合博物館 3階 レクチャールーム

【参加者数】① 29人 ② 16人

【実施内容・目的】

- 専門家によるイセエビに関する最新の研究成果を、一般の方にわかりやすく報告していただいた。こうした成果や取り組みを知ってもらうことで、イセエビやそれらを取り巻く環境について理解を深め、海を守ることの大切さをより身近に感じていただくことを目的とした。
- ①「超音波バイオテレメトリーによるイセエビの行動追跡の試み」
講師 荒井 修亮氏（京都大学フィールド科学教育研究センター 海洋生態系部門教授）
- ②「イセエビを育てる一ふ化幼生の飼育から国内初の人工稚エビ放流まで」
講師 土橋 靖史氏（三重県水産研究所 主幹研究員）



講演会①の様子



講演会①の様子

①京都大学フィールド科学教育研究センター海洋生態系部門教授の荒井修亮氏による「超音波バイオテレメトリーによるイセエビの行動追跡の試み」では、イセエビに超音波発信機を装着し、海での行動を探る試みを紹介。イセエビの海中での行動は、意外に知られていないことや発信機を取り付ける苦労など興味深いお話を頂くことができた。



講演会場



講演会②の様子



講演会②の様子



講演会②の様子

②三重県水産研究所主幹研究員の土橋靖史氏による「イセエビを育てる—一ふ化幼生の飼育から国内初の人工稚エビ放流まで—」では、世界で初めてイセエビの人工ふ化に成功したお話や、今後それを実用化していくための課題等についてお話しいただいた。

両講師のお話からは、海の資源を未来にわたって守っていくための苦勞とともに、未知の事柄に挑戦することの大切さも感じられた。

【来館者の声】

- 演題から専門的な話かとドキドキしたが、海に親しみの持てる内容でした。
- 興味のある分野の話だったので、より知識を深めることができた。
- イセエビって意外と謎が多いことがわかった。
- 美しい海を守って、海の資源を大切にしていきたい。
- イセエビの成長について初めて知った。
- 三重県と海のつながりについて学んだ。

■ギャラリートーク「越賀村絵図を読み解く」

【開催日時】①平成29年10月 1日（日）11：00～、14：00～
②平成29年10月15日（日）14：00～

【開催場所】三重県総合博物館 2階 交流展示室

【参加者数】① 29人 ② 31人

【実施内容・目的】

- 志摩町越賀の郷蔵に保存されている「越賀村絵図」は、縦約1.5m、横約2mの大きさで、美しい彩色が施されている。今回の展示に関する調査で、安政2（1855）年に製作されたことが判明した。また、この絵図には海の部分に潮の流れや深さの違いを色であらわすといった珍しい特徴があり、海をより身近に感じることのできる貴重な資料である。
- この絵図の製作背景や意義等について、三重大学の菅原洋一教授、塚本明教授がそれぞれギャラリートークを行った。また、志摩町越賀出身の小川益司氏がかつての状況等を解説した。



菅原洋一教授によるギャラリートークの様子①



菅原洋一教授によるギャラリートークの様子②



塚本明教授によるギャラリートークの様子



小川益次氏によるギャラリートークの様子

「越賀村絵図」は、縦約1.5m、横約2mという大形の絵図で、越賀の郷蔵に伝来した。全体に丁寧な彩色が施されており、特にこの絵図の海の描写には、潮の流れを描き、また海の深さの違いを色であらわすといった珍しい特徴がある。まさに海をより身近に感じることのできる象徴ともいえる貴重な資料である。

三重大学の菅原洋一教授（建築学）は、集落の様子が海辺から山の方へと変遷していく過程を追いながら、それに伴うくらしの移り変わり等について解説された。

また、今回の展示に関する調査で、製作が安政2（1855）年であることが、同じ郷蔵に伝来した古文書から判明した。三重大学で海女の研究をされている塚本明教授（近世史）は、絵図の製作背景や海の描写からわかることについて説明された上で、海を詳しく描くということは、志摩の海女にとって陸地と同じくらい生活に密着した場所であると述べられた。

また、地元越賀出身の小川益次氏は、参加者の質問に答えながらくらしの移り変わり等についてお話された。小川氏の祖先は、江戸時代にこの絵図の製作に関係したことが古文書からわかっており、地元の方ならではの話に参加者は興味深く感じた様子であった。

【来館者の声】

- 海女さんの漁など、海と共に生きる人々の暮らしについてもっと知りたいと思った。
- 一つの絵図から、その地域の歴史が学べることがおもしろく感じた。また、海の資源を守っていくことの大切さを感じた。
- 過去の絵図の正確さに驚いた。海女の生活、行動の大変さを学んだ。
- 海女漁は、持続可能な漁が重視されていることを知った。

■ワークシートで探検しよう！志摩の海

【開催日時】①平成29年10月 8日（日）11：00～、14：00～
②平成29年11月26日（日）11：00～、14：00～

【開催場所】三重県総合博物館 2階交流展示室ほか

【参加者数】① 16人 ② 69人

【実施内容・目的】

- 「ワークシートでたんけんしよう！志摩の海」を子どもの年齢に応じて2種類製作し、展示を見ながら自分自身で調べ、学ぶ機会とした。
- 展示を見学してワークシートに回答すると、展覧会特製缶バッジをプレゼントするなどして、子どもたちが意欲的に取り組むきっかけとした
- 2階交流展示室だけでなく、3階こども体験展示室にも探検するコーナーを設け、館全体で海について考えたり感じたりするきっかけをつくるようにした。



2階エントランスホールで受付の様子



探検中の様子

「ワークシートでたんけんしよう！志摩の海」は、子どもの年齢に応じて2種類製作した。子どもたちが展示を見ながら自分自身で調べ、学ぶ機会とした。

展示を見学してワークシートに回答すると、展覧会特製缶バッジをプレゼントするなど、ゲームの要素を取り入れた。これにより、子どもたちが意欲的に取り組むきっかけとした。探検する場所を2階交流展示室だけでなく、3階こども体験展示室にも設けた。これにより、館全体で海について考えたり感じたりするきっかけをつくるようにした。



探検中の様子



探検中の様子

【来館者の声】

- イセエビの標本がよかった。
- イセエビや海の香りが好き。
- さかながいっぱいいる海が好き。

■特別講座

【開催日時】平成30年 1月28日（日） 13:30~15:00

【開催場所】三重県総合博物館 2階 実習室

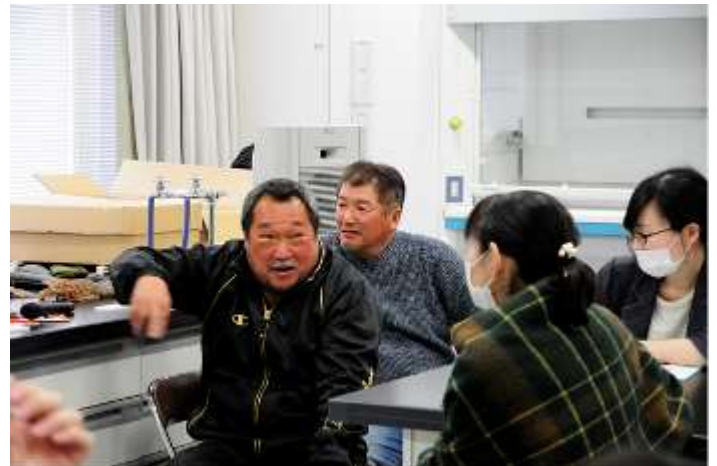
【参加者数】33人

【実施内容・目的】

- 志摩市志摩町和具で、エビ網漁に携わっている漁師さんから直接話を聞く機会を設け、資源を守りながら漁をしていく上での苦労ややりがいをうかがった。
- また、志摩のくらしやその移り変わりについてもうかがった。



学芸員が撮影した映像を見ながら解説する様子



解説する漁師の小磯さん（左）と大山さん（右）



伊勢エビの標本を見ながら解説する様子



トークショー会場の様子

志摩市志摩町和具でエビ刺網漁を行っている漁師さんから、漁の様子やイセエビを使った郷土料理、そして漁村の暮らしについて、地元に暮らす方ならではの話をうかがった。

講師の小磯、大山両氏は現役の漁師であり、和具海老網同盟会の中心的な人物である。

彼らのエビ網漁の様子を撮影した画像を見ながら直接解説を受け、また漁やイセエビ、魚等に関する質問にもわかりやすく答えていただいた。参加者は実際の漁に携わる方から直接話をうかがえる貴重な機会となり、和やかな中にも新しい知見を得ることができた。特に、大切な海の資源を守りながら、イセエビや魚を取り続けていくという姿勢に感銘を受けた参加者が多かった。

【来館者の声】

- ただ獲っているだけでなく、資源の保護という面を考えられているというのを初めて知りました。
- 和具という地域で漁をどのように工夫しているのかを聞き、海の自然保護と人々にとっての海の大切さを学びました。
- 現場の漁師さんの声が直に聞けて楽しかった。
- 自然を保護しようとするルールがしっかり守られているのがすごいと思った。
- イセエビ漁の現状を知り、漁での工夫や苦労を感じた。
- 海を守る人たちの「本気」を感じた。

■ギャラリートーク

【開催日時】①平成30年 1月 4日（木）14：00～

②平成30年 1月 5日（金）11：00～、14：00～

③平成30年 1月 6日（土）11：00～、14：00～

④平成30年 1月13日（土）11：00～、14：00～

【開催場所】三重県総合博物館 2階 交流展示室

【参加者数】90人

【実施内容・目的】

- 古くからくらしの中で使われている道具について、用途や使い方の説明を行った。
- 小学生と調べたお魚調査の結果についてパネルで展示しているが、その経過や分析について解説した。
- イセエビ網漁の展示で、再現された網さばき場やそこで使われる道具について解説した。



会場の様子



学芸員が解説する様子



学芸員が解説する様子



お魚調査の展示の様子

古くからくらしの中で使われている道具に関して、その用途や使い方を当館の学芸員が説明した。

また、展示の中心に夏休みにかけて実施した「小学生と調べるお魚調査」の結果をパネルで解説しているが、その意義や経過について説明するとともに、そこから得られた志摩の海の豊かさやそれに気付いた小学生の感想等を紹介した。

イセエビ網漁の展示では、展示室内に再現された網さばき場やそこで使われる道具について解説し、さらに「さおばかり」を用いてものの重さを量り、むかしの単位である「匁」が、養殖真珠取引の単位として現在も使われていることに触れた。参加者は、三重県の豊かな海を象徴する真珠の単位が匁であることを知り、海が存在について改めて身近に感じた様子であった。

【来館者の声】

- 昔の重さの単位で、今なお真珠の取引に使われている匁を通して、三重の豊かな海の存在が垣間見られた。
- イセエビを一匹いっぴき手で外していることを始めて知った。

【事業全体のまとめ】

- ・展示やそれに伴う調査活動などを通じて、地元である志摩市内の人達が、自分たちが暮らす地域の海の豊かさについて、改めて気付くことができたこと。
- ・子どもたちが地元で食べる魚類の調査に自主的に取り組み、地元志摩地方の食材について深く学ぶことができたこと。
- ・世界で初めてとなるイセエビの成長過程の樹脂標本やイセエビの模型を展示することで、来館した子どもたちがイセエビに興味や関心を抱くきっかけができたこと。
- ・和具海老網同盟会の現役漁師さんによるトークショーを通じて、エビ網漁について学ぶとともに、資源としてのイセエビを保護しながら獲っていくという過程や、それにかかる地元の方の熱意やを実感することができたこと。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 三重大学	先志摩調査の連携
2. 志摩市教育委員会	調査・広報等連携
3. 三重県博物館協会	後援
4. 和具海老網同盟会	調査・展示協力
5.	

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. ・三重タイムズ（3）	平成 29 年（2017）9 月 29 日
2. 中日新聞（15 広域三重）	平成 29 年（2017）10 月 3 日
3. 中日新聞（13 広域三重）	平成 29 年（2017）12 月 28 日
4. 三重タイムズ（3）	平成 30 年（2018）1 月 1 日
5. 産経新聞（22）	平成 30 年（2018）1 月 18 日
6. 三重タイムズ（3）	平成 30 年（2018）1 月 19 日

以上